

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:現代の国語(必履修)	単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において、実社会に必要な国語の知識や技術の基礎を身に付け、論理的に考えたり想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。また、言葉を通して他者や社会に関わる基礎的な態度を養う。		
使用教材	教科書「大修館 新編現代の国語」 副教材「尚文出版 新常用漢字必携 パーフェクトクリア」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	実社会に必要な国語の知識や技術の基礎を身に付けている。	論理的に考える力や想像する力、伝え合う力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な漢字テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【話すこと・聞くこと】 ・日常生活の身近な話題について自分の考えなどが聞き手に伝わるように話したり、日常生活の身近な話題についてその概要や要点を聞いたり、進行や提案などの役割を果たしながら話し合ったりする。 ・常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。	【話すこと・聞くこと】 目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	
2	【書くこと】 ・相手や目的に応じて、必要な情報を収集したり文章の構成や展開を工夫しながら文章を書いたりする。 【読むこと】 ・論理的な文章や実用的な文章に触れ、筆者・書き手の主張や意図を的確に読み取ったり、評価したりする。 ・常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。	【書くこと】 相手や目的、意図に応じた情報を収集し、適切な表現による文章を書き、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【読むこと】 目的に応じて、文章を的確に読み取ったり批評したりして、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	
3	【話すこと・聞くこと】・【書くこと】 ・話したり聞いたりしたことや、描写したり論述したりしたことについて、自己評価・相互評価を行う。 ・常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。	【話すこと・聞くこと】 目的や場に応じて、様々な視点から伝え合う内容を検討し、自己の話し方やものの考え方に役立てる。 【書くこと】 相手や目的、意図に応じて、自分の文章の特長や課題を捉え直し、自己の書き方やものの考え方に役立てる。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:言語文化(必修)	単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	「書くこと」「読むこと」の領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能の基礎を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、論理的に考えたり想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。また、言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉を通して他者や社会に関わろうとする基礎的な態度を養う。		
使用教材	教科書「大修館 新編言語文化」 副教材「尚文出版 新常用漢字必携 パーフェクトクリア」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	社会生活に必要な国語の知識や技能の基礎を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的に考えたり想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めながら、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な漢字テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【読むこと】 ・中学校までの学習を踏まえ、我が国の伝統や文化等をテーマとした随筆や小説、物語等を、作者の意図を解釈しながら読む。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景や文語のきまり等を理解する。	【読むこと】 様々な作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、我が国の言語文化について理解を深める。	
2	【書くこと】 ・我が国の伝統や文化等について考えたことや感じたことを、文章の構成や展開を工夫しながら文章で書いたり文芸作品で表したりする。 【読むこと】 ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語等の書き手の主張や意図を的確に読み取ったり、評価したりする。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景や文語のきまり等を理解する。	【書くこと】 相手や目的、意図に応じて、自分の考えたことや感じたことを表現することを通して、我が国の言語文化についての自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【読むこと】 作品や文章を読み取ったり評価したりすることを通して、我が国の言語文化についての自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	
3	【読むこと】 ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語等を読み比べ、それらを比較して話し合ったりテーマを立ててまとめたりする。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景や文語のきまり等を理解する。	【読むこと】 様々な作品や文章を的確に読み比べたり批評したりすることを通して、我が国の言語文化についての自分の思いや考えをより広げたり深めたりする。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:言語文化(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	1年次に学習した内容を基にして、「書くこと」「読むこと」の領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を発展的に身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、論理的に考えたり豊かに想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えをより広げたり深めたりする。また、言葉がもつ価値への認識や言語文化の担い手としての自覚をもちながら、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
使用教材	教科書「大修館 新編言語文化」 プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	社会生活に必要な国語の知識や技能を発展的に身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的に考えたり豊かに想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えをより広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識や言語文化の担い手としての自覚をもちながら、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【読むこと】 ・1年次の学習を踏まえ、我が国の伝統や文化等をテーマにした文学的文章(神話や民話を含む)を、書き手の意図を解釈したり話の展開や人物関係を把握したりしながら読む。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景や文語のきまり等を理解する。	【読むこと】 様々な作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、我が国の言語文化について発展的に理解を深める。	
2	【読むこと】 ・異なる時代に成立した様々なジャンルの文学的文章を、書き手の主張や意図を解釈したり話の展開や人物関係を把握したり評価したりする。 ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語等を読み比べ、それらを比較して話し合ったりテーマを立ててまとめたりする。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景や文語のきまり等を理解する。	【読むこと】 作品や文章を的確に読み取りながら、批評したり、他の作品と読み比べたりすることを通して、我が国の言語文化についての自分の思いや考えをより一層広げたり深めたりする。	
3	【書くこと】 ・日常生活において考えたことや感じたことを、表現技法を工夫したり相互に評価し合ったりしながら小説や詩歌等の文芸作品を創作することで表現する。	【書くこと】 自分の考えたことや感じたことを文芸作品で表現することを通して、情景を豊かに想像したり他者との関わりの中で伝え合ったりする力を伸ばす。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:文学国語(2年次)		単位数 2 単位 (計4単位)	履修年次 2 年次 (3年次との分割履修)
目標	「書くこと」「読むこと」の領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、創造的に考えたり豊かに想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。また、言葉がもつ価値への認識や言語文化の担い手としての自覚を深めながら、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
使用教材	教科書「高等学校 標準文学国語」 副教材「尚文出版 新常用漢字必携 パーフェクトクリア」 プリント教材			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の領域において、創造的に考えたり豊かに想像したり伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識や言語文化の担い手としての自覚を深めながら、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な漢字テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	【読むこと】 ・1年次までの学習を踏まえ、我が国の伝統や文化等について書かれた随筆や評論を、内容や構成、描写の仕方等を捉えながら読む。 ・作品や作家の歴史的・文化的背景等を理解する。		【読むこと】 様々な作品や文章に触れることで社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、そこに表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、我が国の言語文化について理解を深める。	
2	【書くこと】 ・我が国の伝統や文化等について考えたことや感じたことを、文章の構成や展開を工夫しながら文章で書いたり創作作品で表現したりする。 【読むこと】 ・随筆や小説、物語等の内容や形式について、自分の解釈や見解を基に書評を書いたり、相互に評価し合ったりする。 ・作品や作者の歴史的・文化的背景等を理解する。		【書くこと】 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開、修辞等を工夫しながら明確に表現する。 【読むこと】 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価したり、文体の特徴や効果について考察したりする。	
3	【読むこと】 ・テーマを立てて随筆や小説、物語等の文学作品を集め、アンソロジーを作成する。 ・作品や作家の歴史的・文化的背景等を理解する。		【読むこと】 設定した題材に関連する複数の作品を基に、我が国の言語文化についての自分の思いや考えをより広げたり深めたりする。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:国語表現(2年次)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次 (3年次との分割履修)
目標	「現代の国語」で学習した「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基礎を踏まえ、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考えたり想像したり、他者との関わりの中で伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。また、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。		
使用教材	教科書「大修館書店 国語表現」 プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	実社会で自分の思いや考えを伝えるために必要な国語の知識や技術を身に付けている。	論理的に考える力や豊かに想像する力、他者との関わりの中で伝え合ったりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の言語活動の様子や課題などの提出状況、発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、グループになって進行や提案などの役割を果たしながら話し合う。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に関わる身近なテーマについて、情報収集・整理の手法を用いたり、話の構成を工夫したりしながら意見文を書く。 常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。 	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、自分に関わる事柄について情報を収集し、話の構成を工夫する。 	
2	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実社会の問題の中からテーマを選び、根拠となる情報を集めたり、調べたことを話し合ったりしながら小論文を書く。 <p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の身近な話題について、グループディスカッションやビブリオバトルをとおして効果的に話し合ったり話の概要を的確に聞き取ったりする。 常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。 	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、相手や意図に応じて根拠となる情報を基に論理の展開を考え、表現を工夫する。 <p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や場に応じて、自分に関わる事柄の中から話題を選び、話の内容や構成、表現を工夫する。 	
3	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で調べたことをプレゼンテーションソフトを使ってスピーチしたり、自己評価・相互評価を行ってそれらを振り返ったりする。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実社会の問題や自分に関わる事柄をテーマにした文章を書き、自己評価・相互評価を行い、今後の文章作成に生かす。 常用漢字や基礎的な語句・語彙、その場に応じた表現等を身に付ける。 	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や場に応じて、資料や機器を効果的に用いたり、相手の同意や共感が得られるように表現したりする。 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えが効果的に伝わるように吟味したり、自分の文章の特長や課題を捉え直したりして、自己の考え方やものの考え方に役立てる。 	
学習上の留意点	<p>① プリント類は学習順にファイルにとじる。</p> <p>② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。</p>		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	国語:国語表現(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	2年次に学習した内容を基に、話す・聞く能力、及び書く能力を発展的に身に付ける。特に、目的や相手に応じて効果的に話したり書いたりするために必要な力を発展的に身に付ける。また、国語における言葉の成り立ちや表現の特色、言語の役割などについて理解を深め、現代社会における言語生活の充実を図る態度を養う。			
使用教材	教科書「大修館書店 国語表現 改訂版」 プリント教材			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(話す・聞く能力)	(書く能力)	(知識・理解)
	国語について関心を持ち、様々な場面で適切に表現できる態度や現代社会における言語生活の充実を図る態度を養おうとしている。	目的や場に応じて、言葉遣いや文体などの表現を工夫して効果的に話したり的確に聞き取ったりしている。	相手や目的に応じて題材を選び、主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書いている。	自らの考えを表現するために必要な文法、語彙、表記、音声等を身に付けている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況及び発表内容などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な文章の書き方や原稿用紙の使い方、表記に関する知識、文章の構成の仕方を学ぶ。また、学習したことを活かして自分の考えを整理して、相手に正確に伝えたり文章にまとめて書いたりできるように練習を重ねる。 題材は、身近なテーマや自己分析ができるようなものを取り上げる。社会人として効果的に表現するために必要な力を実践的に学ぶ。 		自分の感想や意見をわかりやすく相手に伝えたり、相手を説得したりするような文章力の基礎を身につける。また、自己分析をあらゆる観点から行って文章に書き表すことで、自己の内面を客観的に観察し、よりよい自分を目指す姿勢を養う。	
2	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークや表現課題を通して、実社会や実生活で活用できる表現技術を実践的に学ぶ。 1学期に学習した事項を活用しながら、新聞記事をもとに意見を述べたり、自分自身の考えを表現したりする。 		日常生活の中の様々な場面で、適切なコミュニケーションが図れるよう、必要となる知識、能力を実践的に身に付ける。また、授業の学びをきっかけに、それらを日常生活で活用する態度を身に付ける。	
3	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で身につけた表現技法を活用し、総合的な課題に取り組む。 必要に応じて、日本語の特徴や独特な日常表現などに触れ、表現の幅を広げる。 		卒業するにあたって、自分自身を振り返ったり、卒業後も活用できる言語運用能力を活用したりして表現力を伸ばす。また、伝統的な言語文化に触れて表現の幅を広げながら、今後の人生において適切かつ積極的に表現しようとする態度を養う。	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度のもと、主体的に課題と向き合い、自分で限界を作らずに粘り強く考え、表現しようとする。 授業内で積極的に課題に取り組み、身につけた表現力を実生活や実社会で活用しようという意識をもつ。 			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	国語:現代文B(3年次)		単位数 2 単位 (計4単位)	履修年次 3 年次 (2年次との分割履修)	
目標	2年次に学習した内容を基にして、さらに多くの作品に触れることで、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を磨き、自己の感性を発展的に高めることを目的とする。また、人間や社会、自然などについて考察し、思考力や想像力を伸ばす。				
使用教材	教科書「東京書籍 新編現代文B」 副教材「尚文出版 新常用漢字必携 パーフェクトクリア」 プリント教材				
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(話す・聞く能力)	(書く能力)	(読む能力)	(知識・理解)
	文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写を正確に読み取ったり表現を味わったりしている。	人間や社会、自然等についての自分の考えを、論拠を示しながらわかりやすく話している。	人間や社会、自然等についての自分の考えを、論拠を示しながら効果的に書いている。	文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写を正確に読み取ったり表現を味わったりしている。	音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、言語文化に関する基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な漢字テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	生徒が興味・関心を持ちやすい作品を取り上げ、文章を読み取っていく。「小説」では、自己の感性を高められるよう、登場人物の心情や情景描写、ストーリーの展開を読み取る。「随筆」では、筆者の考え方・感じ方を、「評論」では、文章の構成や筆者の考え方を読み取る。また、適宜、漢字・慣用句・ことわざなどの習得を図る。		小説・随筆・評論等の多様な作品に触れ、様々な考え方や生き方を読み取る力をつける。また、多くの文章を読むことによって、今までに培われた語彙力の伸長を図るとともに、文章読解に対する意欲を高めて理解力を養う。		
2	「小説」では、表現を味わいながら、作者の意図をとらえる。「評論」では、筆者の考え方・論旨を正確にとらえ、自分の考えをより深める。また「詩」を読むことを通して、作者の豊かな表現方法に触れる。適宜、漢字・慣用句・ことわざなどの習得を図る。		幅広い時代・ジャンルの作品を読み、優れた文章表現や技巧に触れることで、豊かな言語感覚・感性を養う。また、難易度の高い文章にも触れることで、さらに読み解く力をつけ、漢字などの語彙力の伸長を図り、言語感覚を磨く。		
3	文章を読み取り、作者の伝えたいことや主題をまとめる。また、それぞれの文章のテーマについて、自分の考え・意見を表現する。また、適宜、漢字・慣用句・ことわざなどの習得を図る。		様々な作品を読むことで、文章を読み解く力を養うとともに、語彙力・理解力を伸ばし、作者の伝えたいことや主題についてまとめる力を身につける。また、自分の考え・意見を表現することで、自分の考えをより深める。		
学習上の留意点	授業内容について正確に理解し、的確にノートを取るようにする。また、自分の考えを深められるよう、授業中の課題には丁寧に取り組む。				

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	国語:古典A(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	古典に親しむことによって、自国の文化と伝統に対する関心を深め、自らのものの見方や感じ方・考え方の幅を広げ、感性を豊かにする。		
使用教材	教科書「大修館書店 古典A 物語選 改訂版」 授業プリント		
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(読む能力)	(知識・理解)
	古典に対する関心を深め、積極的に理解するとともに、鑑賞をとおして古典を楽しもうとしている。	様々な文章や当時の文化・習慣に触れることで、ものの見方や感じ方・考え方の幅を広げ、自国の文化と伝統に対する理解を深めている。	古典を読むうえで必要となる音声、表記、語句、語彙などの知識を理解し、身に付けている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な古語テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	古典を読む上での基本的な知識を身に付け、説話や物語を中心に鑑賞する。1年次の既習事項と関連性を持たせつつ、生徒が関心を持つ作品を取り上げ、読解に必要な古語の意味や文法に触れながら、そこに記された人間の生き様、作者の教訓や意図等を読み取っていく。	作品内容に関連した古典常識を資料等で確認したり、現代と重なる文化や言葉等を取り上げたりして、古典の世界のイメージを持つ。また、既習事項とつながりを持たせることで古典に対する関心を広げる。	
2	当時の文化や慣習に触れ、古典に対する理解を深められるよう、古典常識を学ぶ。また、歌物語や百人一首を取り上げ、作者や和歌に関する知識を得るとともに、和歌を暗誦する。	歌物語や百人一首に関連した古典常識や作者、和歌に対する知識・理解や関心を深め、ものの見方や考え方、感じ方を豊かにする。	
3	古典の世界に対する理解をさらに深められるよう、百人一首などの代表的な古典作品については映像教材等を用いて学習する。	百人一首などの学習を通じて、日本語の美しさ、古典の世界の面白さに気づき、生涯を通じて古典に親しむ態度を身に付ける。	
学習上の留意点	古典に対する興味・関心を持ち、積極的に学べるようにする。授業ノートの整理、プリント類の整理、課題等に丁寧に取り組む、「自分は古典をしっかりと学んだ、頑張った」という実感を持てるよう取り組む。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:郷土文学(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	郷土(三重県や和歌山県南部)を舞台とした小説や神話・伝説、文化、及びこの地方出身の作家とその作品等の文学的文章を通して、郷土の言語文化に対する理解を深めるとともに、創造的に考えたり豊かに想像したりする力を伸ばし、郷土に対する自分の思いや考えを広げたり深めたりする。また、郷土の文学的文章を通して他者や社会に関わる態度を養うとともに郷土への愛着を養う。		
使用教材	プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	郷土に関する我が国の言語文化に対する知識や理解を深めている。	郷土の文学的文章を読むことを通して、創造的に考えたり豊かに想像したりする力を伸ばし、郷土に対する自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	郷土の文学的文章を通して、言葉がもつ価値への認識や言語文化の担い手としての自覚を深めたり、他者や社会に関わろうとしたりしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、言語活動の様子、課題などの提出状況、定期的な小テスト及び発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	・郷土の有名人を描いた作品や郷土出身の作家の作品、東紀州の神話や民話等を鑑賞することを通して、郷土の文学的文章に表現された熊野古道を含めた自然や歴史、文化への理解を深める。	郷土の様々な文学的文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、郷土の言語文化について理解を深める。	
2	・郷土を舞台とした作品や郷土出身の作家の作品等を鑑賞することを通して、作家の生き方や考え方を理解する。	郷土の様々な文学的文章を読み取ったり評価したりしながら、文学的文章が成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、作品の解釈を深める。	
3	・2学期までに学んだことを踏まえ、郷土の文学的文章に対する自分の解釈や見解を基に生徒相互で意見交換を行ったり議論したりする。 ・学校周辺の旧跡・史跡の見学や講師による講演を通して、郷土に対する理解を深めながら、自らの郷土への思いを振り返るきっかけにする。	文学的文章の内容や解釈を踏まえ、郷土が文学的文章に与える影響について考えたり、郷土で育った自分を改めて認識したりして、郷土についての自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:創作(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	俳句や川柳、詩などの文芸作品を鑑賞・理解することを通して、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、自ら創作活動を行うために必要な知識や技術を身に付けたり、創造的に考える力や豊かな想像力を伸ばしたりする。また、自分で様々な文芸作品を創作することの楽しさを体験しながら、生涯にわたる社会生活を豊かにしようとする態度を養う。		
使用教材	プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	我が国の言語文化に対する理解を深めたり、創作活動に必要な知識や技術を身に付けたりしている。	様々な文芸作品の創作活動に必要な考える力や豊かな想像力を伸ばしている。	自分で様々な文芸作品を創作することの楽しさを体験しながら、生涯にわたる社会生活を豊かにしようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度や課題の提出状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な文芸作品を鑑賞し、文芸作品の表現技法を理解する。 基礎的な表現手法を活用して、ネーミングや俳句を創作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文芸作品を鑑賞・理解することを通して、我が国の言語文化に対する理解を深める。 創作活動に必要な知識や技術、創造的に考える力、豊かな想像力の基礎を身に付ける。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 1学期で身に付けた知識や技術を活用しながら、俳句や短歌等の韻文作品を創作する。 創作作品を相互で鑑賞したり評価したりしながら、表現技法や発想の幅を広げたり深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動に必要な知識や技術、創造的に考える力、豊かな想像力を身に付ける。 自分で様々な文芸作品を創作することの楽しさに触れる。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 2学期までに身に付けた知識や技術を発展的に活用しながら、俳句や短歌、動画等を創作する。 創作作品を相互で鑑賞したり評価したりしながら、表現技法や発想の幅を広げたり深めたりして自己の創作活動に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動に必要な知識や技術、創造的に考える力、豊かな想像力を発展的に高める。 自分で様々な文芸作品を創作することの楽しさを味わう。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。 		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	国語:創作(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	文芸作品を創作または鑑賞することをおして、創作のために必要な知識や表現力を身につけるとともに、自分で文芸作品を創作することの喜びや楽しさを感じる。また、我が国の伝統文化に対する理解を深め、生涯にわたって表現する態度を養う。		
使用教材	プリント教材		
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(書く能力)	(知識・理解)
	言語文化や表現方法に対する関心を持ち、様々な方法で自らの考えや思い、イメージ等を表現しようとしている。	様々な文芸作品を創作することをおして、文の組み立てやことばの使い方などを正確に理解し、テーマに沿って相手や目的に応じて適切に表現している。	自らの考えや思い、イメージ等を表現するために必要な文法や語彙、表現方法等を身に付けている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度及び課題などの提出状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	多くの文芸作品を鑑賞し、基本的な語句を学習しながら、作品読解を行う。その中で、使われている様々な表現方法を学び、自らも創作活動を行う。また、2学期以降の創作活動におけるアイデアの収集方法を学ぶとともに、その収集を行う。	基本的な正しい文章の書き方などを習得する。自分の意見や発想をまとめ、創作活動ができる基礎的な力を身に付ける。	
2	1学期で習得した表現方法やレトリックを、より効果的に生かすために、俳句や川柳、詩、エッセーなどの創作を行う。	自ら創作できるよう、必要な知識や技術を身につける。また、日常生活の様々な場面に興味を持ち、そこから得た発想や思考をうまく表現できるようにする。	
3	1・2学期と同様に、様々なジャンルの作品を読み、表現力や発想力を養い、自分史や小説、童話などの創作を行う。	様々なジャンルの作品に触れることによって、表現力や想像力を養うとともに、自ら創作することの楽しさを味わう。	
学習上の留意点	① プリント類は学習順にファイルにとじる。 ② お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、お互いに学び合うという姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	国語:国語常識(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	義務教育段階の国語に関する事項の定着や、日本の伝統的な言語文化などに触れることを通して、国語を適切に表現・理解するために必要な基礎的な言語能力を高めるとともに、国語に親しむことによって人生を豊かにする態度を養う。		
使用教材	副教材「尚文出版 国語必携 ライトパーフェクト演習(三訂版)」 副教材「日本漢字能力検定協会 漢検3級過去問題集 2023年度版」 プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	国語に関する事項や日本の伝統的な言語文化などに触れながら、国語を適切に表現・理解するために必要な基礎的な言語能力を身に付けている。	国語に関する事項や日本の伝統的な言語文化などをより深めたり、国語を適切に表現・理解するために必要な基礎的な言語能力を活用したりしている。	国語に関する事項や日本の伝統的な言語文化などに親しむことによって人生を豊かにしようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度や課題の提出状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	・副教材を用いて、日常生活で多用される慣用句や四字熟語の意味や用法及び表記の仕方の他、新聞や契約書などに見られる実社会で必要な常用漢字について学ぶ。	・慣用句や四字熟語、実社会でよく目にする漢字を、その語句の意味も含めて身に付けることで、日常生活における表現を豊かにする。	
2	・1学期の学習を踏まえ、副教材やプリント教材を用いて、実用的な文章や日常生活における身近な話題などについて書かれた文章で用いられている漢字や慣用句などについて、より深く学ぶとともに、それらの文章について要約をしたり反論や意見を述べたりする。	・文章の組み立てや語句の意味・用法に関する学習を通して、日常生活における身近な知識や話題などについて書かれた文章を正確に読み取り理解する力を高める。	
3	・副教材を用いて、日本文学の流れを理解したり、代表的な文学作品のあらすじを調べたりする。また、好きな本を持ち寄って紹介したり感想を述べたりする。	・文学史や代表的な文学作品について理解を深めるとともに、読書に親しむ態度を養う。	
学習上の留意点	授業内容をよく理解しながら、課題に取り組む。その場限りの学習にならないよう、日常生活と結びつけながら具体的に学習し、日々の繰り返し・反復練習を大切にする。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	国語:国語常識	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	漢字や慣用句などの言語文化を学ぶことをとおして、実社会や実生活において、国語を適切に表現・理解するために必要な基礎的な言語能力を高めるとともに、社会人として必要な教養を身に付ける。		
使用教材	副教材「尚文出版 国語必携 ライトパーフェクト演習(三訂版)」 副教材「日本漢字能力検定協会 漢検3級過去問題集 2023年度版」 プリント教材		
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(読む能力)	(知識・理解)
	国語についての関心を深め、視野を広めることで自らの生き方を振り返り、感想や意見を積極的に表現しようとしている。	実用的な文章や日常生活における身近な話題などについて書かれた文章を読んで、人間や社会、自然などについての自分の考えを深めたり、読書に親しんだりしている。	日常生活で多く用いられる漢字や慣用句、四字熟語などを理解し、実社会や実生活で活用できる国語に関する基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度及び課題などの提出状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	語彙を豊かにするとともに常用漢字の読みに慣れるよう、副教材を用いて、語句の意味や用法及び表記の仕方、日常生活で多用される常用漢字について学ぶ。	基礎的な語句の意味・用法や漢字、慣用句など、社会で求められる国語能力を身につける学習を通して、自分の考えを書いたり相手に話したりするときに活用できるようにする。	
2	1学期と同様、語彙を豊かにするとともに常用漢字の読みに慣れるよう、副教材を用いて、語句の意味や用法及び表記の仕方、日常生活で多用される常用漢字について学ぶ。また、実社会や実生活で活用できる語彙力の向上が図られるよう、実践的な問題演習を行う。必要に応じて、読書指導を行う。	基礎的な語句の意味・用法や漢字、慣用句など、社会で求められる国語能力を身につける学習を通して、語彙の豊かな文章を書いたり、相手にわかりやすく話したりするために必要な知識を身につける。また、実社会や実生活とのつながりを意識することで、社会人としての教養を身に付ける姿勢を養う。	
3	1・2学期の学習を踏まえ、副教材やプリント教材を用いて、実用的な文章や日常生活における身近な話題などについて書かれた文章で用いられている漢字や慣用句などについて、実践的な問題演習を行う。また、必要に応じて、読書指導を行う。	実社会や実生活で活用できる語句の意味・用法や漢字、慣用句などの学習をとおして、社会人として必要となる教養を身に付ける。	
学習上の留意点	授業内容をよく理解しながら、課題に取り組む。その場限りの学習にならないよう、日常生活と結びつけながら、具体的に学習し、日々の繰り返し・反復練習を大切にする。		